

尾久西小学校の防災教育

～命の大切さ、思いやる心を育てるために～

荒川区では、震災時の危険性が指摘されており、地域防災の中心的な担い手である防災区民組織の高齢化、平日の日中に震災が発生した場合には、若い人たちが地域にいないという問題があります。

そこで、尾久西小学校では、小学生の段階から、具体的な防災に係る体験を通じた防災意識の醸成が必要であると考え、子供たちの実態に応じた防災教育を進めています。

日本赤十字社作成の教材を活用

小学校段階における防災教育の目標は、防災意識を高め、周りの命を救うこと、命の大切さ、思いやる心を育てることです。毎月の防災訓練を実施するとともに、防災教育を根付かせる学習として位置づける必要があります。本校では、今年度、総合的な学習の時間において、防災教育を実践しています。地域で予想される地震や火災などだけでなく、災害の総合的な基礎知識を身につけています。

荒川区内では想定されていなくても、子供たちは、将来旅行をしたり、引っ越しをしたりして、大雪の降る地域や、火山のある地域を訪れたりするでしょう。そこに住むことになるかもしれません。どこにいても、災害時に適切に対応するための基礎を小学校で学ぶことの意義は、大きいと考えます。

防災教育チャレンジプラン校

今年度、内閣府主催による「防災教育チャレンジプラン」校に本校が全国 19 団体の一つとして指定されました。これは、毎年防災教育の新しい取組を実践する団体を対象に、経費の補助やアドバイザーの派遣を通して、支援を行うものです。

本校では、授業の中で防災教育を進めると同時に、防災教育の一環として、「ジュニア防災クラブ」を実践しています。特別活動「クラブ活動」の一つとして、昨年度創設し、現在は希望者の4年生から6年生27名が、月に一度活動しています。これまでに消防搬送訓練やガスの防災授業、火おこし体験、身の回りの物を利用した応急手当のワークショップ、消火器材を乗せたリアカーを引いて、地域に防災を呼びかける「突撃リアカー隊」など、尾久消防署や地域の協力を得ながら、多様な防災教育を行ってきました。

尾久西小の子供一人一人が、自助・共助の意識を高め、命の大切さ、思いやる心を育てるために、地域や保護者の方々のご理解とご協力をいただきながら、子供の可能性を伸ばしてまいります。

引き続き、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



▲防災教育の教材／青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」



▲避難訓練／外にいるときの地震を想定し、しっかり頭を守る1年生



▲ジュニア防災クラブ／スーパーのビニール袋を使って、応急手当を学ぶ子供たち

ご支援いただいた方々

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------------|
| ○東京消防庁尾久消防署 | ○西尾久三丁目宮元町会 | ○西尾久中町会 |
| ○荒川区教育委員会事務局指導室 | ○西尾久四丁目町会 | ○西尾久五丁目町会 |
| ○荒川区立中学校防災部 | ○西尾久四丁目自治会 | ○西尾久六丁目町会 |
| ○荒川区区民生活部防災課防災事業係 | ○西尾久七丁目町会 | ○尾久西小避難所運営委員会 |
| ○荒川区立あらかわ遊園 | ○田端スカイハイツ自治会 | ○防災教育チャレンジプラン実行委員会 |
| ○NPO 法人プラス・アーツ | ○ニュー田端スカイハイツ自治町会 | ○(株) 東京ガスライフバル荒川 |

発行者 東京都荒川区立尾久西小学校 〒116-0011 東京都荒川区西尾久 5-27-12 電話 03-3893-8890
発行日 平成 30 年 2 月 17 日 発行所 (株) 企画宣伝社



この冊子は「防災教育チャレンジプラン活動支援金」を使用して作製されました。

防災ジュニアリーダーの育成

～自分の身は自分で守る人へ／助けられる人から助ける人へ～



東京都荒川区立尾久西小学校

ジュニア防災クラブ活動の概要

活動のきっかけは？

- 荒川区は、区内の約6割を木造住宅密集地域が占めており、東京都が発表した首都直下地震による被害想定では、23件の火災が発生し、区内の建物の14%が焼失されるなど、震災時の危険性が指摘されています。
- 東京都「木密地域不燃化10年プロジェクト」において、荒川区が「不燃化特区」に指定され、平成32年（2020年）度までに整備地域内の不燃領域率を70%に引き上げることを目標としています。
- 地域防災の中心的な担い手である防災区民組織の高齢化、平日の日中に震災が発生した場合には、若い人たちが地域にいないという問題があり、新たな防災の担い手として中学生を地域の防災・減災活動に貢献できる防災ジュニアリーダーとして育成する必要性がありました。
このため、区では平成27年4月に全区立中学校に、行政と中学校長会が協働で防災部を創設し、一定の成果を見たところです。
- 本校が一次避難所及びトリアージポストに指定されてはいますが、地域町会が中心となっている「避難所運営委員会」では、自主的に活動するところまでは至っていません。
そこで、地域の防災意識を向上させるために、児童と一緒に活動することで地域住民の防災意識の向上を図り、小学校にも中学校防災部の弟妹分を組織として立ち上げられないかと考えました。
- 小学生の早い段階で、防災意識の醸成が必要であると考え、昨年度4月に特別活動「クラブ活動」として、中学校防災部の弟妹分である「ジュニア防災クラブ」を創設し、活動を開始しました。

活動の目的は？

- 1 知識、思考・判断の育成
 - ・地域で起こりやすい災害や過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かします。
- 2 危険予測・主体的な行動の育成
 - ・災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保します。
- 3 社会貢献、支援者としての意識の育成
 - ・自他の生命を尊重し、自分の身は自分で守ること、助ける人への基礎的な意識を育てます。
 - ・思いやりの気持ちを育て、いじめ撲滅を目指します。

活動の工夫・ポイントは？

地域性	<ul style="list-style-type: none">○消防署や消防団等の関係機関の方々と接することで、児童が防災に関する知識や技術を学びます。○地域の防災・減災活動に貢献し、将来の防災リーダーや消防団員を志す人材を小学生の段階から育成します。○幅広い世代の方が参加し、楽しみながら防災の知識や技術を学ぶことができる「あらBOUSA I（あら坊祭）」や「ファイヤーフェスティバル」に参加しています。○イベントを通して、多層な年代の人々が交流することで地域コミュニティの防災力の向上に貢献しています。
独自性	<ul style="list-style-type: none">○小学生の早い段階で、防災意識の醸成が必要であると考え、特別活動「クラブ活動」の一つとして、「ジュニア防災クラブ」を創設し、希望者により活動しています。○課外活動としなかったのは、「クラブ活動」として位置付けることにより、教育課程を圧迫せずどの学校でも取組が可能であることから、今後、他校でも広まることを期待しています。○普段は、経験できない火おこしや紙の皿を作り、それで非常食を食べるなど、子供にとっては魅力的な訓練を提供しています。



応急手当ワークショップ
スーパーのレジ袋を使った応急手当法を学習



応急手当ワークショップ
身近なもの（ネクタイ）を活用した止血訓練



火起こし体験
木を擦り合わせて火種を作り、
火を起すまでのタイムを競争



防災カードゲーム
防災カードゲーム「なまずの学校」で
トラブル解決法を学習



毛布を活用したダミー搬送訓練
毛布を内側に丸め、掛け声をかけ、
足から搬送すると安全



ジャッキアップ訓練
ジャッキを使って障害物を持ち上げ、
協力して被災者を救出



防災マップ作り
タブレット端末を活用した町歩きを実施



地域の方と日常的に交流
学校便りや行事の案内を町会の方に届け、
いざという時に備えて顔見知り



あらかわ遊園地で訓練
心肺蘇生法やAEDの操作を来園者に実演



突撃リヤカー訓練隊に挑戦
救急車が入れない路地や公園でも防災を呼びかけ



地域・町会の方と日ごろから交流
子供たちが、率先して消火器の使い方を教え、
避難経路を一緒に歩行



区民に防災啓発運動
近隣の「あらかわ遊園地」で、
来場者に防災を呼びかけ



中学校防災部と連携
地域の防災イベントに参加し、中学生と一緒に防災体験



AED「操作初級」試験受験
訓練を繰り返し、グループで操作初級に挑戦
合格者が敬礼



心臓マッサージ訓練
消防署の方がマンツーマンで特訓



AED操作訓練
消防署のレスキュー隊員の協力による
「AED操作訓練」に挑戦

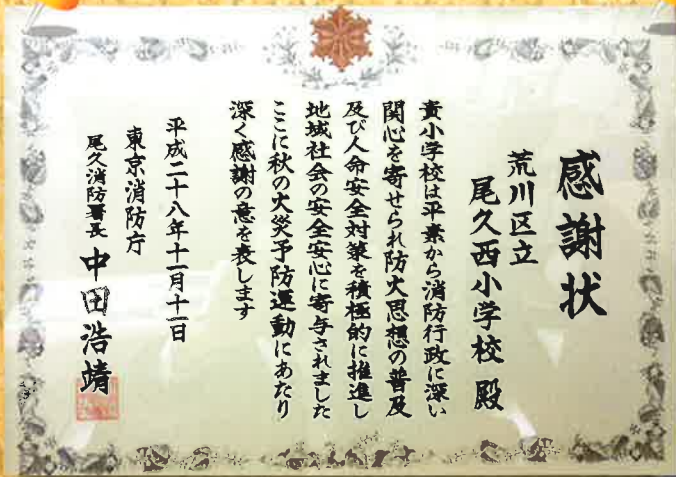


心臓マッサージ訓練
消防署オリジナルの緑色パッチを校帽へ



クラブ見学会
ジュニア防災クラブの活動の様子を後輩が見学
防災意識を全校に啓発

心臓マッサージ訓練/AED操作訓練
合格するともらえる消防署オリジナルの修了証



消防署見学とロープワーク訓練
消防署を見学し、ロープワークを教わる部員

地域消防署から表彰
ジュニア防災クラブの活動が評価され
授与された感謝状



大人と一緒に活動
イベントにスタッフとして参加し、
区のために活動する醍醐味を実感



「あらBOUSAI(あら坊祭)」
イベントを通して、地域コミュニティ
の防災力の向上に貢献



防災部の中学生と一緒に
区民に防災・減災を呼びかけ、
防災に関わろうとする意識が向上



安心・安全ガスの防災
発災時のガスの取り扱い・ガスメーターの
復帰の方法などを体験

自主性	<p>○防災検定に挑戦しています。家族で話し合い、家具転倒防止対策などの家の中での安全についてレポートにまとめています。(筆記試験、家族防災会議レポート、防災自由研究)</p> <p>○被災した際の家族の集合場所を確認し、子供たちが日ごろから防災と減災に深い関心を持ち、意識を高め、自分で考え判断し行動できる「防災力」を身につけます。</p> <p>○区民を対象に、子供たちが、率先して防災を呼びかけ、消火器の使い方・心肺蘇生法やAEDの使い方を教える機会を設定しています。</p> <p>○地域・町会の方と一緒に、子供たちが、避難経路を歩いたり、学校便りや行事の案内を町会の方に届けたりして、日ごろから交流し、いざという時のために顔見知りになっています。</p>
継続性	<p>○クラブ活動を毎年継続させるため、予め活動内容を具体的に設定しておき、その中から児童に選択させ計画し、どの教員でも担当できるようにしています。</p> <p>○指導技術の維持のために、外部指導者を導入しています。教員の役目は、児童の安全確保を中心とし、担当教員の校務負担を軽減しています。</p> <p>○中学校防災部と連携し、地域の防災イベントに参加し、中学校への継続性を図っています。</p>

● 活動内容は？ クラブ活動：月1回 午後2時40分から午後3時40分まで

平成28年度

- 4月23日 ガイダンス・組織作り(役員選出、班編成)・防災検定の説明
- 5月12日 絆ネットワーク活動(高齢者宅を訪問を兼ねた地域パトロールを実施)
- 6月5日 ジュニア防災検定事前課題(家庭における安全確認をレポートにまとめる)
- 7月7日 ジュニア防災検定事後課題(夏休みの課題として防災新聞を作成)
- 9月9日 ジュニア防災検定受検
- 10月14日 防災マップ作り(タブレット端末を活用したまち歩きを実施)
- 10月21日 突撃!リヤカー訓練隊(リヤカーで地域を回り、消火器の使い方を説明)
- 11月5日 地域住民が参加する防災をテーマにしたまち歩きイベントに参加する。
- 12月19日 AEDの使用方法を学ぶ。(消防職員による指導)
- 1月27日 救命入門コースを受講する。
- 2月17日 区主催の防災イベント「あらBOSAI」ガイダンスを受ける。
- 3月4日 区主催の防災イベント「あらBOSAI」に参加する。
- 3月6日 消防署を訪問(ロープワークや消火器の使い方を学ぶ)

平成29年度

- 4月24日 ガイダンス・組織作り(役員選出、班編成)・防災検定の説明
- 5月12日 消火搬送訓練・尾久消防署の方による、消火器の取り扱い説明及び放水訓練・毛布を活用したダミーの搬送訓練
- 6月5日 安心安全ガスの防災・東京ガスによる発災時のガスの取り扱い・ガスメーターを復帰させる方法・ガスの匂いがしたらどうするクイズ
- 7月7日 火起こし体験・木を擦り合わせて火種をつくり、火をおこすまでのタイムトライアル
- 9月22日 紙食器づくりチャレンジ・紙食器を折り、その紙食器で非常食を試食
- 10月20日 応急手当ワークショップ・スーパーのビニール袋やネクタイ等の身近なものを使った応急手当を正しく実践できるかクイズ形式で確認
- 11月17日 突撃リヤカー隊体験・あらかわ遊園内において、消防署の方と一緒に消火訓練を呼びかけ、来場者と一緒に訓練
- 12月18日 防災カードゲーム「なまずの学校」・発災時のトラブルを今あるもので解決する工夫
- 1月26日 ジャッキアップゲーム・ジャッキの使い方を知り、押しつぶされているカエル人形を救出する訓練
- 2月16日 AED操作訓練①・尾久消防署の方による、心臓マッサージの訓練及びAED操作の訓練
- 3月4日 ファイヤーフェスティバル参加・尾久消防署主催による防災訓練にスタッフとして参加
- 3月5日 AED操作訓練②・前回の訓練を復習・グループによる「操作初級」試験を受験

※ジュニア防災検定(家族防災会議レポート、防災自由研究)は、夏休みの課題とし、筆記試験は、3学期に放課後実施する。